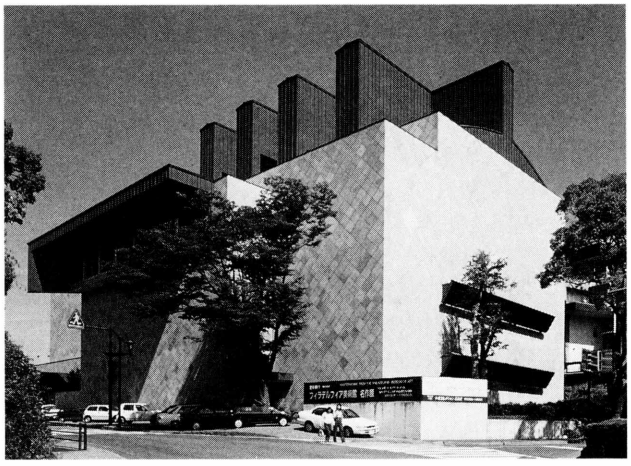
平成6年度BELCA賞　ベストリフォーム・ビルディング部門　表彰作品

熊本県立美術館分館



所 在 地　熊本県
建物用途　美術館（現在）、図書館（改修前）
竣　　工　1958年
改　　修　1992年
所 有 者　熊本県
設 計 者　エリアス・トーレス・トゥール
　　ホセ・アントニオ・マルチネス
　　大和設計株式会社
施 工 者　株式会社浅沼組　坂口建設株式会社
　　太陽電気株式会社　株式会社東芝
　　広誠設備工業株式会社
　　株式会社上田商会　三祐工業株式会社

〈審査評〉 熊本城を取り囲む優美で重厚な石垣に対面して、遠望からも一見して日本的なデザインとは異質でダイナミックな外観の県立美術館分館が新設されている。

1958年に本館、1971年に別館として建設された県立図書館が、その躯体部分のみを残して新しい県立美術館分館として再構築されたものである。

美術館としての用途の変化・内部空間・外観等は、旧建物の設計図・写真からは推察不可能と思われる程に変貌を遂げ、魅力的な再生となっている。

2棟の旧建物を連結する場所に設けられた玄関や、上下動線処理に用いられたエスカレーター・吹抜空間等は、旧建物の躯体からの数々の制約を感じさせない巧みな解決方法であろう。

また、3階展示ホールに見られる斬新な上下する展示用可動間仕切や、閉ざされた展示スペースの連続から解き放されて出現する3階の喫茶室が大きく熊本城の景観の中に飛び出して溶け込む演出等は、内部空間や必要とされる機構そのものが、外観の特徴あるデザインに結び付けられ見事な解決を示している。

従来の旧い建物の再生という枠組・常識から大きく離れて、旧躯体には新しい構造部材も取付け自由自在の表現は、前年度のBELCA賞を受賞した「UCCコーヒー博物館」と同様、改修によって画期的な活性化を図った建物として評価されよう。

しかし、熊本城に隣接し市の中心部にあった公共建築物として、一時期は毎朝開館前から行列ができる程親しまれたという旧県立図書館の数十年間に及ぶ街の景観の歴史・市民の記憶という、無形ではあるが貴重な共有財産は、何らかの形でこのダイナミックな新しいデザインの中にも盛り込まれていたら、という審査員の感想もある。